

令和2年度 さいたま市立桜木小学校 自己評価書

校長 堀 数太 印

1 学校で設定した「令和2年度の目標」及び関係する「評価項目」について

- (1) 一人ひとりのよさを生かし豊かな心を育む教育の推進
—生徒指導の状況、不登校児童生徒への支援の状況、教育相談の状況、特別支援教育の状況
- (2) 学ぶ楽しさ、喜びが味わえる授業（学習指導）の実践
—各教科等の授業の状況、児童生徒の状況教、職員の意欲・資質及びその向上に向けた取組状況
- (3) 心身ともに健康でたくましい子を育てる教育の実践
—保健管理の状況、保健教育の状況
- (4) 安心・安全で心豊かな学びを保障する教育環境の充実
—学校と保護者、地域住民との連携の状況、自己評価・学校関係者評価の実施状況
- (5) 教職員が学校業務改善を行い、ワーク・ライフ・バランスの充実を図る
—各行事への取組状況、業務内容の改善状況、勤務状況

2 評価結果

- 「すすんで挨拶ができてきているか」について児童・保護者・職員ともに課題があると考えている。学校では朝のあいさつについて立哨指導や生徒指導朝会で声掛けをしている。少しずつ会釈や目をあわせて挨拶する児童が増えている。
- 学校での学習面・生活面についての児童アンケートでは90%以上が肯定的な意見をもち、多くの児童が充実した学校生活が送れていると考えられる。職員の校内研修を通して、ICTを活用した授業改善や生徒指導研修等の成果がみられた。一方で、保護者アンケートにおいて、学校が児童や保護者のトラブルについて適切に対応しているかについて、否定的な回答が10%程度ある。児童の学校生活における課題点を保護者と共有し、きめ細やかな対応を行い、指導していくとともに、コロナ禍においても学ぶ楽しさが味わえる授業改善の必要がある。
- 保健管理の状況について肯定的に捉えている児童、保護者が多い。「新型コロナウイルス感染症に対応したさいたま市学校教育活動実施マニュアル」に従い、分散登校、消毒作業、教育課程の編成、授業方法の工夫、校内テレビ放送を通して手洗いやうがいの啓蒙など児童が安心して学校生活を送れるように取り組んだ。また、身体接触を避けた体育や外遊びのため校内での怪我が昨年度よりも減少した。しかしながら、家庭での骨折などの大きな怪我が例年よりも多く見られる。基礎体力向上に向けての取り組みが必要である。
- 業務改善を目的とした在校時間の意識調査では80%程度の教職員がワーク・ライフ・バランスを意識して業務に取り組むことができた。業務を職員間で分担したり、学校行事の内容の工夫・改善を図ったりする職員も増え、意識的に業務改善に取り組むことができています。教員と児童が向き合える時間を確保することができた。

3 次年度に向けた具体的な改善策について

- あいさつの質を高め、望ましい人間関係づくりの基礎基本が身に付けられるように「心を潤す4つの言葉」を奨励し、職員自ら積極的に声を掛けていく。児童からも積極的な取り組みができるよう、児童会を中心に全校を挙げての「あいさつ運動」を実施していく。また、学校便り等を通して、家庭・地域の協力を仰ぎ、学校・保護者・地域と連携して改善を図る。
- 校内研修を通して、学校が目指す授業像を共有し、学年の現状に合わせ主体的・対話的で深い学びが実現できるよう授業改善を図る。また、体力向上に向けてスポーツタイムなどの学校全体で運動をする機会を増やし、OJTで体育の授業改善の研修を行う。
- いじめの早期発見及びいじめへの対処が徹底できるよう「いじめ防止対応マニュアル」を順守し、職員研修を実施する。マニュアルを保護者・地域へホームページや学校便りで紹介するとともに、児童には朝会など全体の場や学級指導並びに児童会活動等を通していじめの予防や防止に向けて指導を継続する。

令和2年度 さいたま市立桜木小学校 学校関係者評価書

さいたま市立桜木小学校

学校関係者評価委員長 清水目 修一



1 学校関係者評価の実施体制

(1) 構成人数

8名

(2) 実施回数

3回（1回は資料配布）

2 学校関係者評価（学校関係者評価委員の意見等）

- ・児童アンケートより、「教師ががんばったことをほめてくれる」「教師がいけないことを注意してくれる」の結果について肯定的な意見が多く見られた。児童の健やかな成長のために、称賛をもってやる気をもたせ、間違いがある場合はしっかりと正せるように指導を続けてほしい。
- ・保護者・地域アンケート「学校は学校や家庭で『おはようございます』『ありがとうございます』などのあいさつが進んでできる児童の育成に努めている」の項目から、あいさつができないのは学校の児童育成が原因と考える方が計15%いることがわかる。一方で、児童や家庭に原因があると考えた方や両者に原因があると考えた方がいることも考えられる。数字として実態がわかるようにアンケートを実施し、「あいさつ運動」の改善につなげてほしい。
- ・あいさつについて出来ていないとの意見が保護者側から毎年のようにあがるが、今年度はコロナ禍でとくにやむを得ない事情があり、仕方のない面もあったのではないかと。質問項目を変えて、別の角度であいさつについて検討してみてもどうか。
- ・誰もが経験したことのないコロナ禍での学校運営であったが、引き続き子ども達のために運営に当たってほしい。
- ・コロナウイルス感染症対策としてマスク着用での授業が多かったことが推測される。学校が感染対策として様々な対応をしていたことを、目に見える形で情報を発信し、安心して学校生活を送れるようにしてほしい。
- ・学力向上にICTの活用が活かされている。次年度以降も積極的にタブレット型コンピュータの活用し、授業や家庭学習に活かしてほしい。

学校関係者評価を受けた学校の対応

- ・コミュニティ・スクール実施へ向けて、学校・家庭・地域の連携・協働体制を構築し、地域全体の教育力の向上を図るとともに、地域に信頼される学校づくりを推進する。課題であるあいさつについてもその過程で検討、対応をしていく。目指す児童像を共有し、ともに児童への指導・支援方法を実践していきたい。
- ・コロナウイルス感染症対策として「さいたま市学校教育活動実施マニュアル」を順守し、児童が安心して登校できる学校環境づくりに引き続き取り組む。懇談会や学校ホームページ、様々なお便りを通して、学校での対応方法を発信し、家庭・地域が安心できる学校運営を行う。
- ・3年間、職員研修として、ICT機器を活用し「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善を行ってきた。来年度は一人1台のタブレット型コンピュータが配付されることを生かし、個別最適な学びの実現を目指した授業改善を実践していく。

さいたま市立桜木小学校 学校長 堺 数太

